

社会教育機能としての舞踊

三原みどり

＜研究目的＞

1980年代の日本は、社会人の再教育の場として又、生涯教育の理念に基づいて、公的或は、民間レベルでの各教養講座隆盛の世の中となっており中でも創造的活動、身体的活動は、他の活動と比べて、高い割合を示している。

本研究は、身体活動の中でも、特に人間の始原的欲求に結びつくと思われる律動的美的運動⁽¹⁾、舞踊について、近代社会構造の中での人間の多様な価値観に伴う受容に応ずる計画を仮定することは意義あることと考え、社会教育における舞踊の機能について、実証と試論を提出することを目的とするものである。今回は特に、

a 時流に敏感な民間企業による社会教育講座の目標と実態

b 舞踊教育の受け手の意識

に焦点を当て、報告する。

＜研究方法＞

① 観察及び調査……民間の社会教育講座における律動的美的運動の占める割合、種類、開講の目的等を、調査分析した。

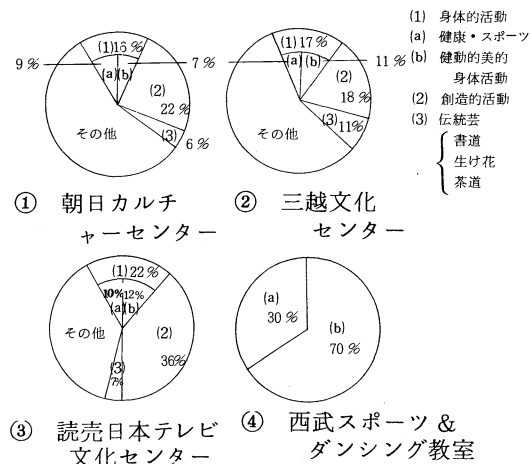
② 実態調査……舞踊体験者（社会教育教室体験者 大学一般体育授業体験者）を対象に質問紙による実態調査を実施した。

＜研究結果と考察＞

a 現在の舞踊の企業実態

今までは、専門家のものとされていた舞踊や一般には馴染みの薄い舞踊も含めて、多様な舞踊講座が、受講者の好みに応じて開講され、各舞踊が

(表 I) 全開講座に対する身体的活動講座の割合



持つ特質を損うことなく、初心者から体験者に至るまで、舞踊の歴史、文化がそのまま伝わるように、工夫されていることが、各講座に共通した特徴と考えられる。

舞踊の社会教育の現状は、運動と実践知的な創造体験と、美的満足を与え、更にそこに集う人々によって、友好と社交の目的も果たす場となっているとみられる。

広義の律動的美的身体活動は、その本質的価値と機能を生活の中に発揮し得る可能性を胎動させているといえよう。

b 社会教育における舞踊の価値

舞踊の特質と、舞踊に対する価値意識を探るために、「なぜ舞踊名を記入に魅かれるのか」に対する理由に、50項目を設定、択多式で発問し、その結果を、舞踊の価値の深化（行なう、観る、理解する）を縦軸に、体験した舞踊の領域を横軸にして、7段階に類別しその舞踊観をみたのが、表Ⅲである。

舞踊の類別は、踊る楽しみを共有しながら、価値を個別化するとみなされよう。資料の限界から断定はできないが、踊る楽しみを導火点として、人々は、様々な舞踊に対して、又、興味、体験の深さ、広がりに応じて、その価値を深化していくと推測される。

又、舞踊の類別にとらわれることなく、「運動系」「民俗系」「表現系」の各要素を取り入れた授業を、授業によるダンス体験1年半の学生に対して行なった後、同様の調査を行なったところ、特定の段階にとどまることなく、各段階に、高い価値意識を得た。(表Ⅳ)

＜まとめ＞

運動の文化としての舞踊を考える時、舞踊はその発生から芸術文化に至るまで、歴史的、地域的に、多様化されて今日に至っている。調査対象が体験している多種の舞踊の価値意識は、歴史的過程の中で舞踊が、各々の価値を内包して、発展してきたその証をみるものであろう。又、現代生活におけるゆとりと、機会の提供は、人間の基本的な欲求と相まって、多様な運動体験——競技・表現・補強（体力づくり）——へ向わせ、舞踊においては「気軽な楽しみ」として「民俗」系統の舞踊が、フォア・オールの役割を担うという前の時代

(表Ⅱ) 複数の教室において開講されている「舞踊」「律動的美的」

科目名	開講状況
舞	・ジャズダンス ×△△△□□□ ・バレエ ××△□ ・モダンダンス ××□□□□ ・社交ダンス ××××□□ ・スペイン舞踊 ×□ ・タップダンス □□□ ・ミュージカル △□
邦楽	・謡曲・仕舞 ××△△△ ・日本舞踊 ××△
健	・ヨガ ×××○○○○△□ ・太極拳 ×○△□□□ ・ジャッキー ×○□□ ・瘦身 ○△□□
康	・エアロビクス △△ ・美容 ×○△□□□

注) ×=朝日カルチャーセンター
○=三越文化センター
△=読売・日本テレビ・文化センター
□=西武スポーツ&ダンシング教室
点線は講座の内容は同等と思われるもの。

の実態が変貌し、「民俗」から「芸術」にわたる全ての舞踊文化が、その基底に、踊る楽しみとしての舞踊の本質を見据えながら、フォア・オールの対象になりつつあると推論でき得るであろう。

今後、社会教育機能としての舞踊は、人間の持つ始原的な欲求である「踊る楽しみ」を根底に有しながら、舞踊の文化を踏まえて、全ての舞踊の価値に通じ、人々の欲求を充足させる、舞踊基礎コース²⁾の開設等を試みつつ、人々の舞踊への接近の深さの違いに対応し、求める層の、多面性、重層性に応じた価値を持った計画を提示し、社会に還元していくべきであろう。

(表Ⅲ) 舞踊の価値意識

	動く(81)	踊る(107)		表現(23)						
			民俗系	踊る・創る	伝 統					
	健康体操 リズム体操 リズム運動 リトミック体操 エアロビクス	ジャズダンス ジャズ体操 ジャズダンス アメリカンダンス リスレッシュダンス (87)	フォークダンス 盆踊り 民族舞踊 (20)	モダンダンス 創作ダンス 自然運動 (12)	日本舞踊 能・狂言 クラシックバレエ ミュージカル舞踊 宝塚 (11)					
行 な う	「動 楽し 踊る 喜び」 (28.0%)	159/567 (37.6%)	229/609 (37.6%)	18/140 (12.9%)	28/84 (33.3%)	15/77 (19.5%)				
	「陶 酔の 喜 び」	54/567 (9.5%)	89/609 (14.6%)	22/140 (15.7%)	18/84 (21.4%)	19/77 (24.7%)				
	「変 身 の 楽 し み」	(9.5%)	(14.6%)	(15.7%)	(21.4%)	(24.7%)				
	「努 力 の 喜 び」 「自 己 へ の 挑 戦」 「内 面 的 な 価 値」	35/567 (6.2%)	41/609 (6.7%)	2/140 (1.4%)	20/84 (23.8%)	18/77 (23.4%)				
	「仲 間 と の 触 れ あ い」	38/243 (15.6%)	99/567 (17.5%)	39/261 (14.9%)	130/609 (21.3%)	31/60 (51.7%)	56/140 (40%)	3/36 (8.3%)	11/84 (13.1%)	5/33 (15.2%)
「リ ズ ム の 楽 し み」	61/324 (18.8%)	7/348 (2.0%)	25/80 (31.3%)	8/48 (16.7%)	12/44 (27.3%)					
観 る 喜 び	「創 造 の 喜 び」	112/567 (19.7%)	17/609 (2.8%)	5/140 (3.6%)	20/84 (23.8%)	6/77 (7.8%)				
	「観 る 喜 び」	13/567 (2.3%)	18/609 (3.0%)	3/140 (2.1%)	5/84 (6.0%)	24/77 (31.2%)				
	「舞 踊 特 性」 「伝 統 的 な 民 族 性 の 理 解」	7/648 (1.1%)	24/696 (3.4%)	5/160 (3.1%)	9/96 (9.4%)	27/88 (30.7%)				

()は 選択頻数 / N×項目数 N=217 10代~60代 成人女子(無解答 16)

最後に、研究をすすめるにあたり、御教示を賜りました松本千代栄先生、調査に、御協力戴きました皆様方に、心から御礼申し上げます。

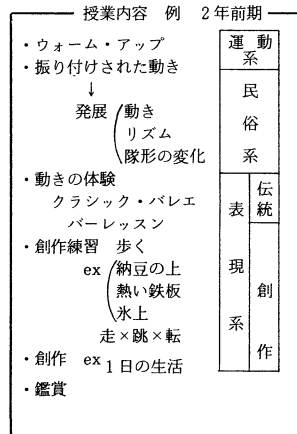
注1) 本研究においては、リズムカルかつ美を追求する欲求を伴った運動と定義する。

2) 舞踊基礎コースは、体力目的ではなく、舞踊そのものの楽しみとしての各種の体験を示す

(表Ⅳ) 舞踊の価値意識

()は 選択頻数 / N×項目数 ×100
N=85 19, 20才女子学生

行為	舞踊的価値	ダンス(大学授業)
行 な う	「動 楽し 踊る 喜び」 (55.8%)	332/595 (55.8%)
	「陶 酔の 喜 び」	231/595 (38.8%)
	「変 身 の 楽 し み」	113/595 (19.0%)
観 る 喜 び	「仲 間 と の 触 れ あ い」	115/255 (45.1%)
	「リ ズ ム の 楽 し み」	194/340 (57.1%)
理 解 す る	「創 造 の 喜 び」	206/595 (34.6%)
	「観 る 喜 び」	169/595 (28.4%)
理 解 す る	「舞 踊 特 性」 「伝 統 的 な 民 族 性 の 理 解」	181/680 (26.0%)



<都下短期大学>

()は 選択頻数 / N ×100

N=85 19, 20才女子学生